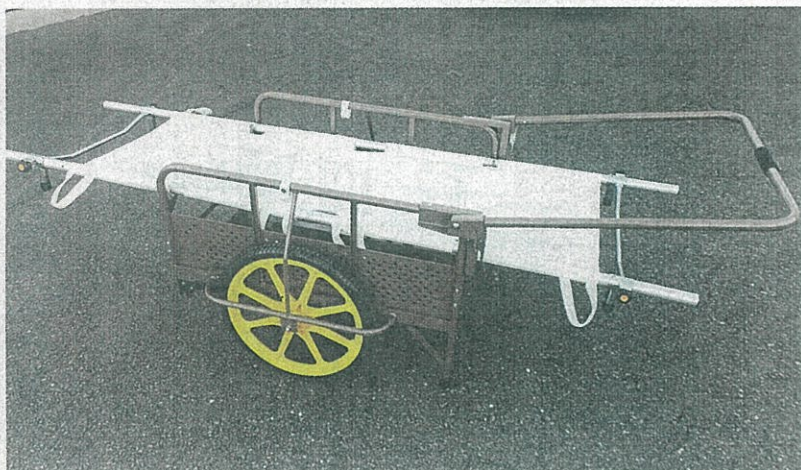


# 防災用品 自社ブランド展開

# 車部品のノウハウ生かす



アルミニウム製の「救急リヤカー」は担架をセットすれば物資の運搬だけでなく人の避難もできる

セプト・ワン（横浜市金沢区、笠井嘉明社長、045-771-7111）は、プレス板金などの金属加工を得意とし、自動車部品や鉄道用部材、精密部品を手がける。一方で部品製造だけでなく防災用品を自社ブランド展開し、モノづくりの経験を生かしたユニークな経営で中小製造業の新たな姿を模索する。

## コンパクト収納

セプト・ワンが手がける防災用品は現在8製品。このうちスタンドバイ式の初期消火器用台車は、消防用ホースや筒先などをコンパクトに収納できる。荷崩れしにくく、万が一の際に効率よく消火器員を運ぶことが出来るのが特長だ。顧客の声を吸い上げ製品化した。笠井社長は「当社が強みの鉄加工やパイプ加工の技術を生かして設計した」と話す。さらに災害時にトイレや着替え、荷物置き場として使える災害用簡易テントの輸入販売も手がけ、防災

## セプト・ワン

## 次世代 BUSINESS 防災

用品のラインアップを拡充する。

## 人の避難用にも

セプト・ワンは1999年に設立。自動車部品製造の石川工業の新規事業部と物販を主力とするアイ・コーポレーションが立ち上げた。創業者の岡野昭昭会長は、自動車部品製造に集中し過ぎた



消防用ホースや筒先などをコンパクトに収納できるスタンドバイ式の初期消火器用の台車

過去の経験を踏まえ、セプト・ワンでは複数の事業を育ててリスクを分散する経営手法で取り組んだ。17年3月期売上高の主要4事業の構成比では自動車部品が88%を占めるが、防災用品や園芸用品の製造販売、卸事業も育ちつつある。防災用品の主力製品のひとつ、折り畳み式リヤカーは自社製造し、横浜市防災機器販売協同組合を通じて、市内町内会や自治会向けに販売している。二つのタイプのリヤカーのうち、アルミニウム製の「救急リヤカー」は別売りの専用担架を設置して物資の運搬だけでなく人の避難も可能。これまで5000-6000台

## 丁寧にサポート

を販売した。耐荷重150kgで、架台は縦800mm×幅590mm×高さ350mm、ノーパンクタイヤを採用する。平時は折り畳んでコンパクトに収納する。1台ずつ直接届けて説明している」と強調する。

使用者が緊急時に誤った使い方ではがをしたり、思うように使えなかつたりしないよう納品時には担当者が現地に直接出向いてきめ細かくレクチャーする。自動車用のフレームシートの部品製造や鉄道用部材、精密部品などを製造した経験から品質には自信をみせるが、さらに利用者の立場を考えた、安全で安心な使い方を丁寧にサポート

（横浜・松崎裕）

つ大産使局研ビ、究  
東済大策業ヤ表、研